

広島ガスの都市ガス安定供給への取り組み

都市ガスは、電気・水道と並ぶ地域を支える重要なライフラインの一つです。その都市ガスを安定的に供給することが、広島ガスの大きな「社会的責任」と考えています。そのため、原料であるLNGの調達・輸送から都市ガスの製造・供給に至るまで、国際情勢、エネルギー市場の動向および業界の動き等を注視しながら、さまざまな施策を講じています。

※各段階での安全対策の取り組み



LNG安定調達に向けた取り組み

● LNG調達先の多様化

ここ数年、世界的規模で天然ガス需要は拡大していますが、当社においても都市ガスの需要増に対応するため、従来からの調達先であるインドネシアに加え、マレーシアからのLNG調達を2006年1月より開始しました。マレーシアとは、2005年度から8年間の契約を締結しています。

また、2009年4月よりロシア連邦の「サハリンIIプロジェクト」からの受け入れも開始しました。「サハリンIIプロジェクト」は、LNGの生産規模が年間960万tという大規模なプロジェクトで、当社では2006年4月に売買契約書に調印しました。この契約により、最大で年間21万tのLNGを調達することが可能となっています。

この結果、LNG調達先が多様化でき、より一層の供給安定性向上が期待できます。

● LNG調達コストの低減

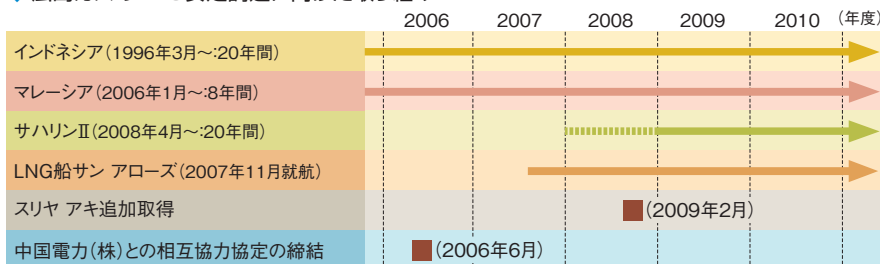
当社のLNG輸送は、インドネシアからは「スリヤ アキ」「スリヤ サツマ」、サハリンからは「サン アローズ」で行っています。2004年12月には「スリヤ アキ」の一部(約33%)を買い取り、さらに2009年2月には75%まで追加取得しました。サハリンは、日本から近距離で、比較的短期間に輸送できることから、効率的な原料調達が可能になります。本航路に就航する「サン アローズ」は、(株)商船三井と当社が共同保有しており、当社が主体的に運用することが可能となっているLNG船です。

これによって、より安定したLNG供給体制の確立と、将来にわたるLNG調達コストの低減が期待されています。

● 中国電力(株)との相互協力協定

地域における効率的かつ安定的な天然ガス普及を図るため、相互のLNGの調達・供給ならびに天然ガスの利用技術開発の分野において申し出がなされた場合、互いの協力を目的とする、相互協力協定を締結しています。

◆ 広島ガスのLNG安定調達に向けた取り組み



LNG船 サンアローズ

製造・供給設備の拡充



● 水島ステーションおよび導管を活用した卸供給の実施(瀬戸内パイプライン(株))

当社の連結子会社である瀬戸内パイプライン(株)の設備で、水島LNG基地から天然ガスを受け入れ、熱量調整等を行う設備「水島ステーション」および水島-福山間の導管(約40km)が2006年11月に完成しました。これにより、広島県東部等への天然ガス供給体制が整備され、2007年1月から当社が福山ガス(株)に卸供給を行っています。



水島ステーション(瀬戸内パイプライン(株))

◆ 卸供給等ガス販売量

